

平成27年3月18日

宮城県への派遣における報告

宮城県 気仙沼土木事務所 建築班

主任主査 高田 祐孝



- 仙台から車で2時間半(130km)
- 宮城県内で仙台から唯一通勤できない場所
- 単身赴任者が多い
- リアス式海岸沿い
- 漁業が盛ん(漁獲高全国10位)



ホヤぼーや



- 震災から今まで延べ32都道県、760名
- H26年度は123名

土木65名

事務37名(ほとんどが用地関係)

建築17名(ほとんどが復興住宅整備室)

電気 3名

機械 1名

2年目 29名 3年目 4名

気仙沼土木事務所

116名中25名が派遣職員(約2割)

土木12名、事務12名(全て用地)、建築1名



- 気仙沼合同庁舎は津波で3階の床まで浸水

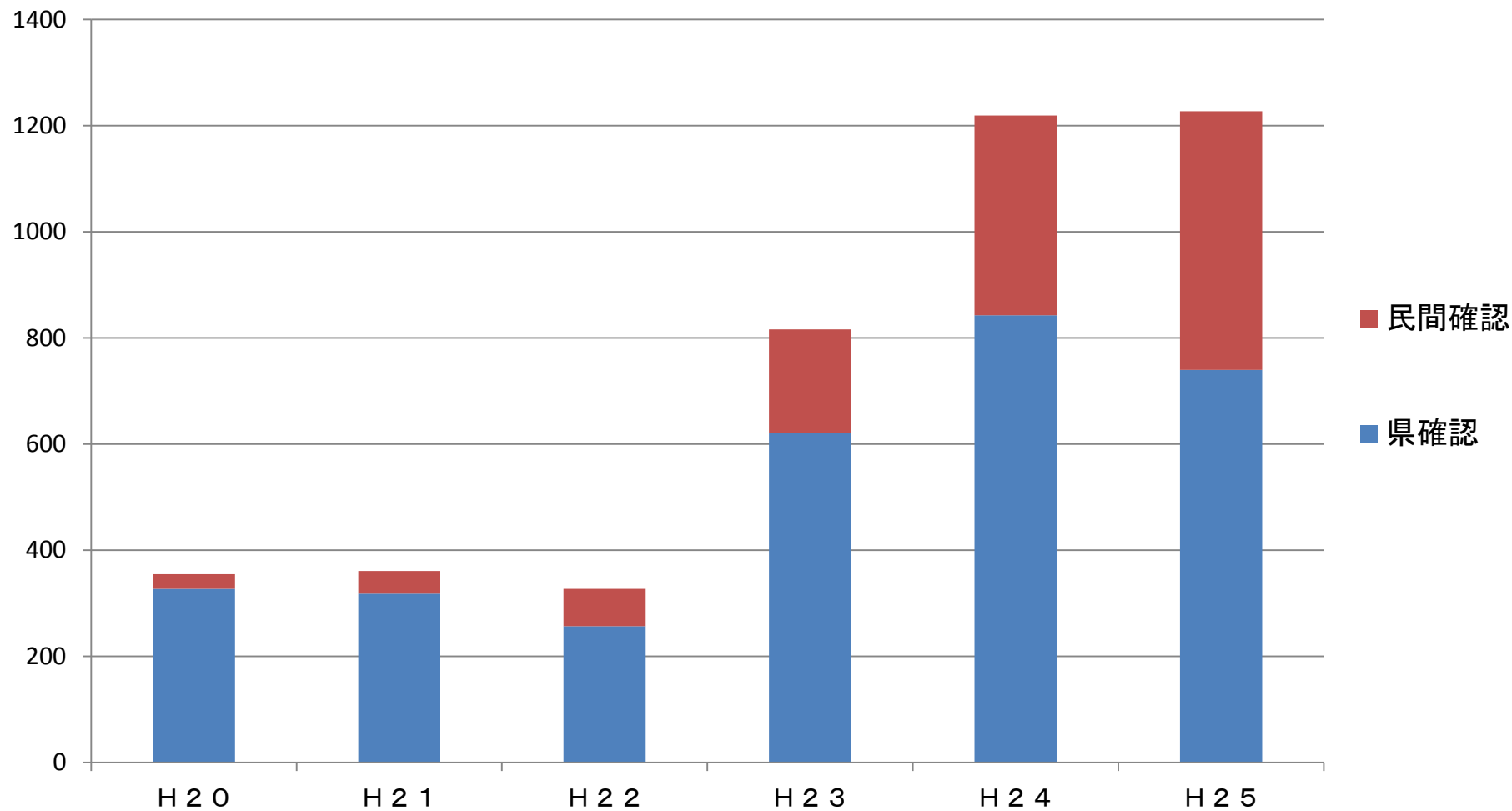
別棟の倉庫、車庫は流出
公用車、自家用車、書類も流出
職員は4階以上で一夜を過ごした。
しばらくは民間ビルなどに分散して
業務を行った。

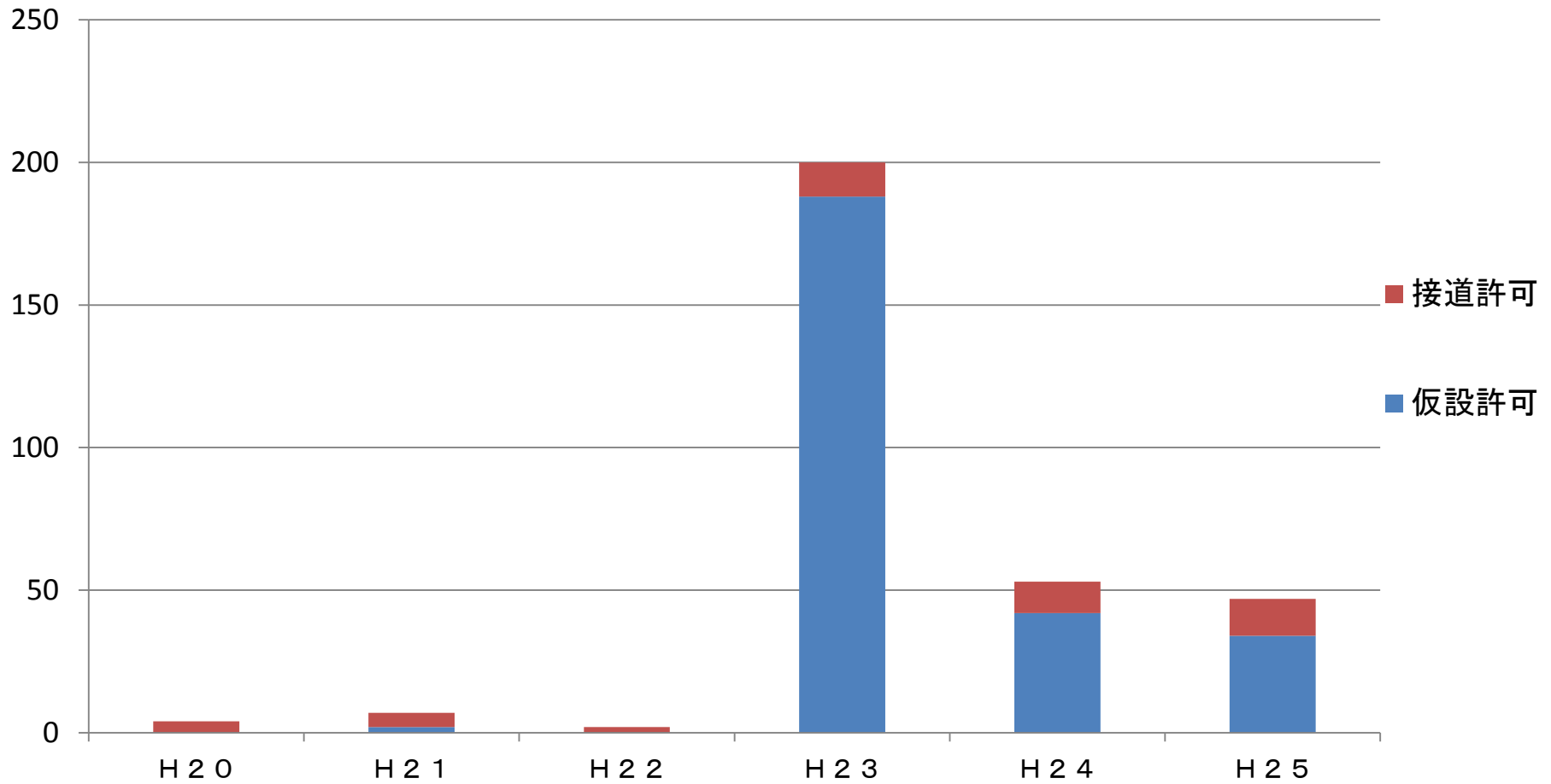


- 現在は高台のプレハブ仮設庁舎

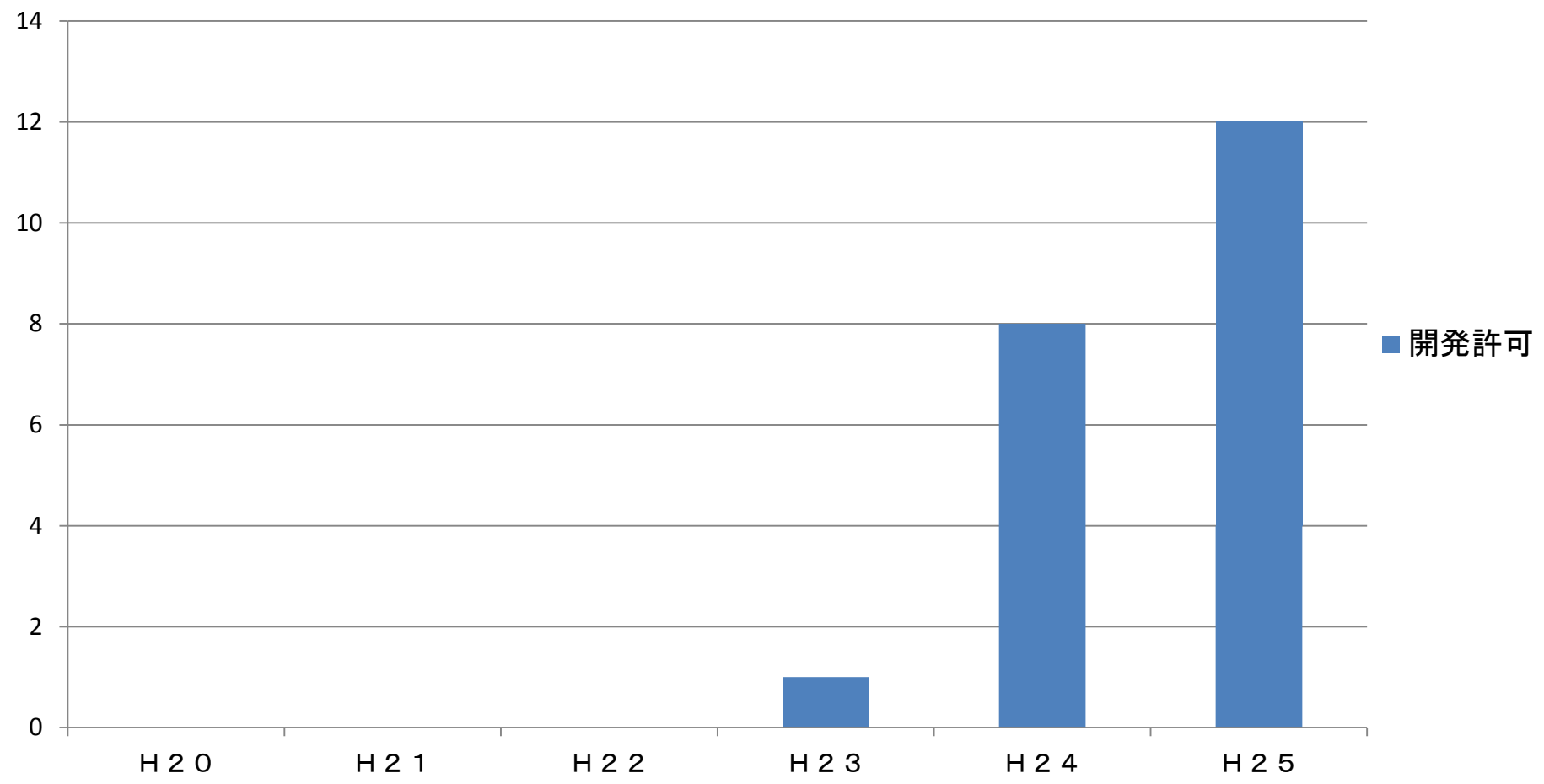
公用車は他県からの寄付







気仙沼土木事務所管内の開発許可件数の推移 宮城県



住まいについて

- 気仙沼新城寮 ← マイホーム
H9築 食事付き 職場から3km 高台
- 気仙沼新城仮設寮
H24築 食事付き 職場から3km 高台
- 気仙沼市南郷仮設寮
H25築 食事なし 職場から600m 浸水区域
- 気仙沼田中前寮
S57築 食事付き 職場から600m 浸水区域
風呂トイレ共同 プロパーのみ

他に岩手県の寮も借り上げている。
入居者はプロパーのみ



仕事面

- 土地勘がない
- 役職が分かりづらい
- 職員の需要と供給がうまくいっていない
- 旅費システムが複雑で分からない
- 訛りが強く聞き取れない
- 派遣職員向けの意見交換会、研修があるのはありがたい

仕事面(気仙沼編)

- 県庁から遠い(車で2時間半)
- 本庁協議が多い
- 事務量が多くきつい
- 県庁からの資料提供依頼が多い

生活面

- 寒い
- 隣の生活音が気になる(マンション借上げの場合)
- 家電製品が無償レンタルでありがたい
- 食事付きで職場に近いワンルームタイプの寮に入れてもらえてありがたい

気仙沼市 (被災前・後)



旧気仙沼土木事務所



旧気仙沼土木事務所

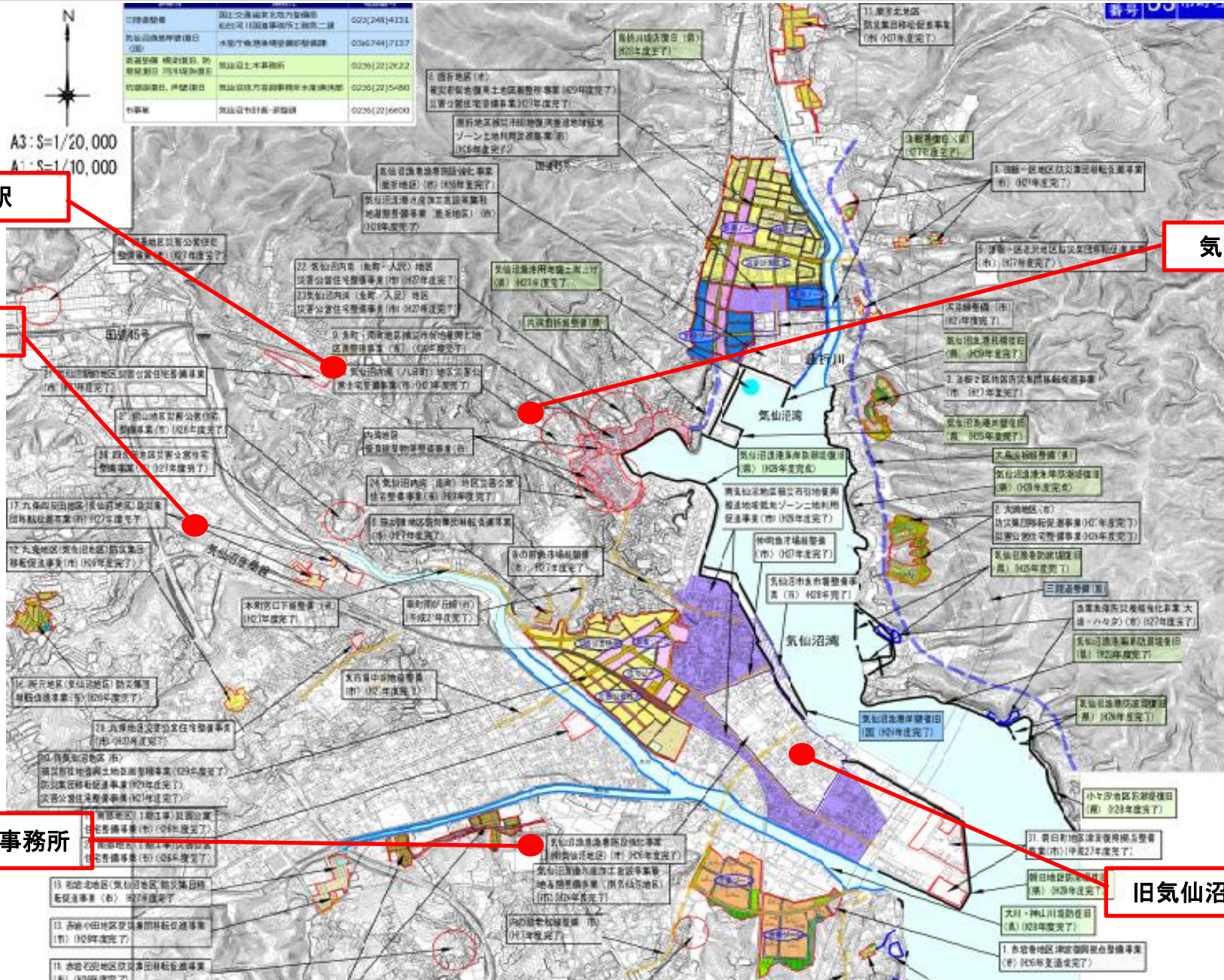
津波高12m

気仙沼土木事務所



写真提供: (一社)東北地域づくり協会

復興まちづくり事業の事例(気仙沼市)



気仙沼駅

気仙沼市役所

マイホーム

気仙沼土木事務所

旧気仙沼土木事務所

南三陸町（被災前・後）



津波高15.9m

防災庁舎

写真提供：(社)東北建設協会

復興まちづくり事業の事例(南三陸町) 宮城県

高台3地区全域(変更後※H26.5.20高台登録決定通知書送付時点)

志津川市街地 土地利用計画イメージ図



※この土地利用計画図(宅地形状含む)は現時点の案であり、今後変更することがあります



気仙沼市南気仙沼地区



南三陸町志津川地区



気仙沼市の災害公営住宅

公営住宅整備状況(宮城県)

(H27.1)	戸数
計画戸数	15,484
事業着手戸数	13,487
工事着手戸数	9,004
工事完了戸数	2,692



南三陸町の災害公営住宅

防災集団移転促進事業(宮城県)

(H27.1)	地区数
計画地区数	195
事業着工地区数	193
建築可能地区数	49

- 庁舎の被災（高台移転、大事な書類は上階へ）
- 派遣職員居住地の確保（寮の高台移転、ワンルーム化等）
- 派遣職員の心のケア（受け入れ時）
- 任期付職員の採用（派遣要員）
- 地籍調査の推進
- 街の高台移転の想定
- 帰省旅費の支給